

和歌山市
子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査結果報告書
【概要版】

平成 31 年 3 月

和歌山市

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

第2期和歌山市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、和歌山市民の子育ての状況や、幼児教育・保育・地域の子育て支援の利用希望などを把握し、計画策定の基礎資料とすることで、よりよい子育て施策の推進につなげていくことを目的として実施しました。

(2) 調査対象

和歌山市内に居住する就学前児童の保護者（就学前保護者）2,500人、小学生児童の保護者（小学生保護者）1,500人、小学生・中学生・高校生約1,000人を対象として行いました。

(3) 調査の方法と回収状況

就学前保護者、小学生保護者については、住民基本台帳から無作為抽出で対象者を選定し、郵送による調査票の配布・回収を行いました。小・中・高生については、市内の小学校・中学校・高校の協力を得て、人数等のバランスを考慮して、クラス単位での配付・回収を行いました。

回収状況は以下の通りです。

■配布数・回収数・回収率

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前保護者	2,500	1,155	46.2%
小学生保護者	1,500	688	45.9%
小学生・中学生・高校生	1,024	970	94.7%

(4) 表記方法について

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式の質問であっても、表記のパーセント値の合計が100.0ちょうどにならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表のいずれにおいても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、集計対象者の総数に対する、選択肢ごとの回答者数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難だったものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文・図表中の設問の選択肢は簡略化した表記にしている場合があります。

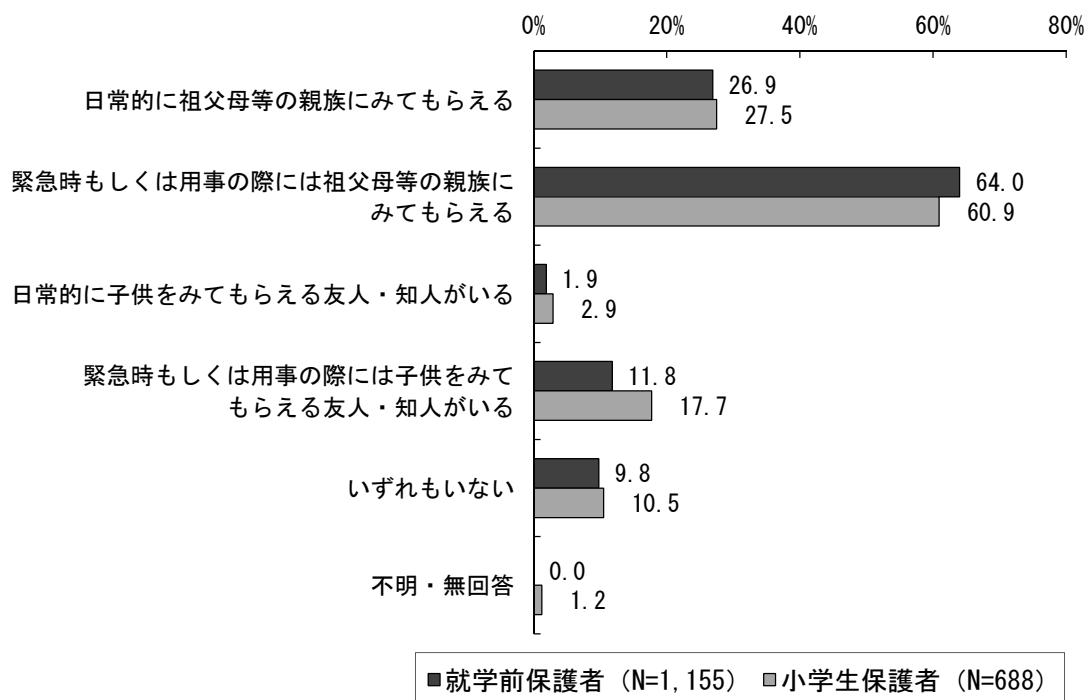
2. 保護者調査の結果

(1) 子供の育ちをめぐる環境について

① 日頃、子供をみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉

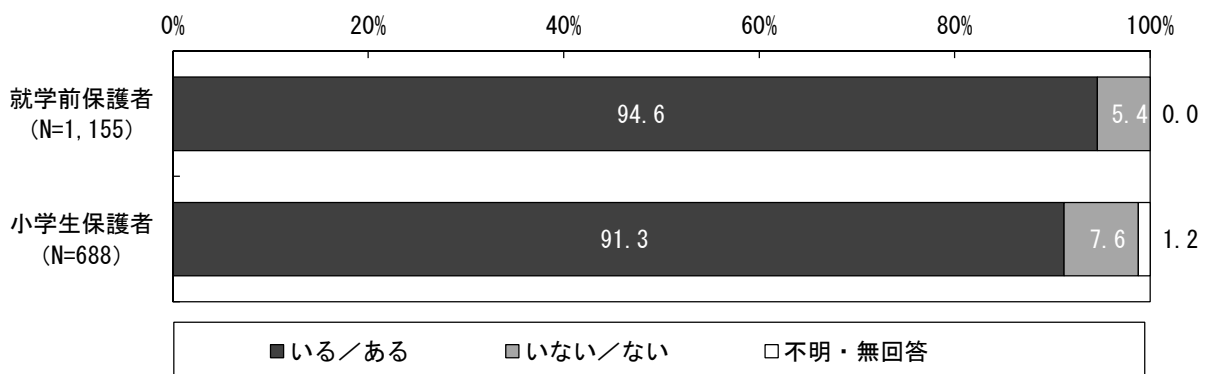
日頃、子供をみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前保護者、小学生保護者ともに6割を超えて最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が多くなっています。

前回調査と比較すると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が減少しています。



② 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

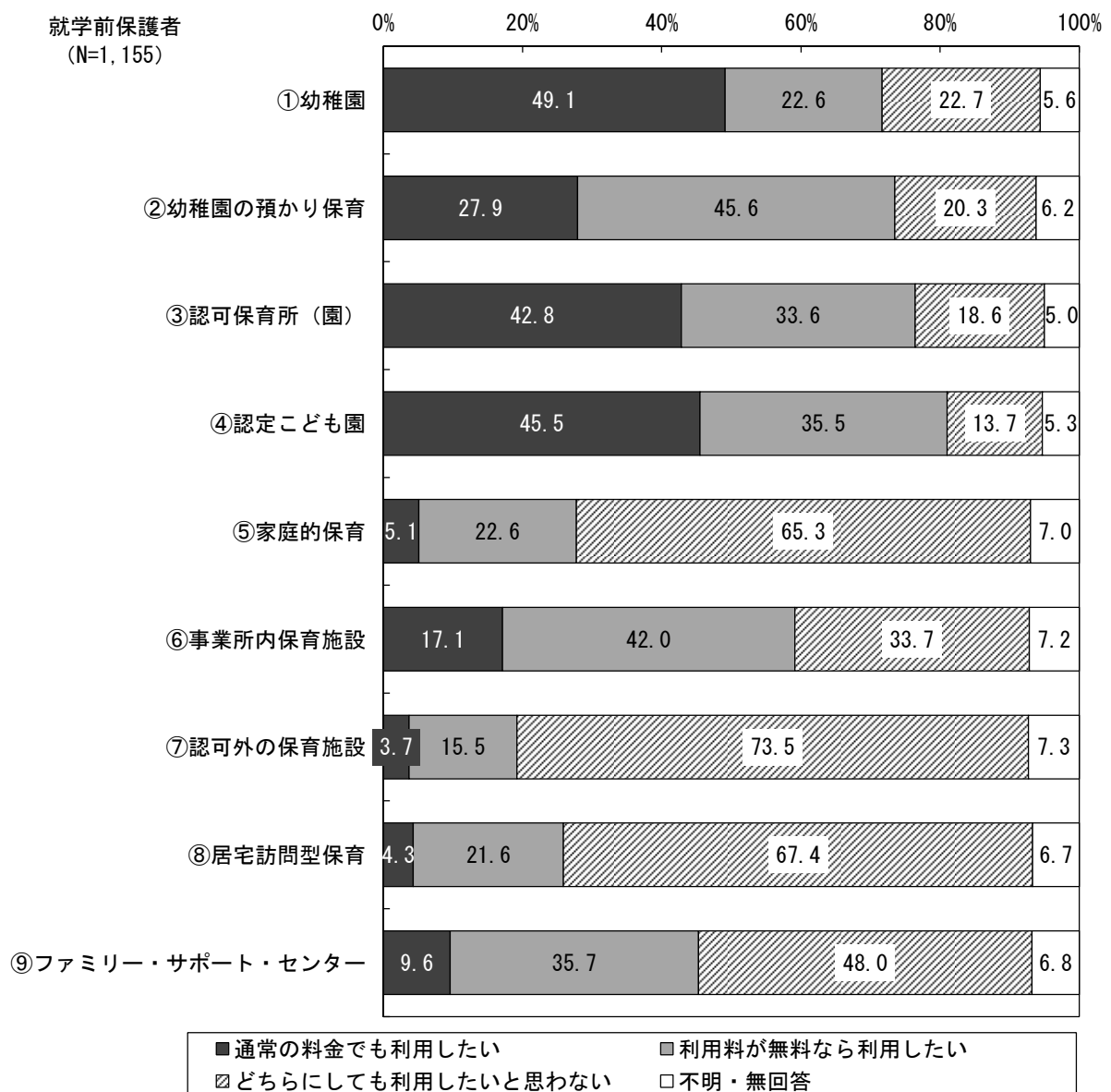
子育てをする上での相談相手（場所）が「いない／ない」という人は、就学前保護者で5.4%、小学生保護者で7.6%となっています。



(2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

① 通常の利用料が生じた場合の教育・保育事業の利用希望と、利用料が無料になった場合の利用希望（就学前保護者のみ）

今後、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業についてみると、「通常の料金でも利用したい」は「幼稚園」「認定こども園」「認可保育所（園）」がいずれも4割台となっています。「利用料が無料なら利用したい」との合計でみると、「認定こども園」が8割を超えて最も利用希望が多くなっています。「利用料が無料なら利用したい」は「幼稚園の預かり保育」「事業所内保育施設」で4割を超えており、無償化による利用の伸びが大きくなることが考えられます。

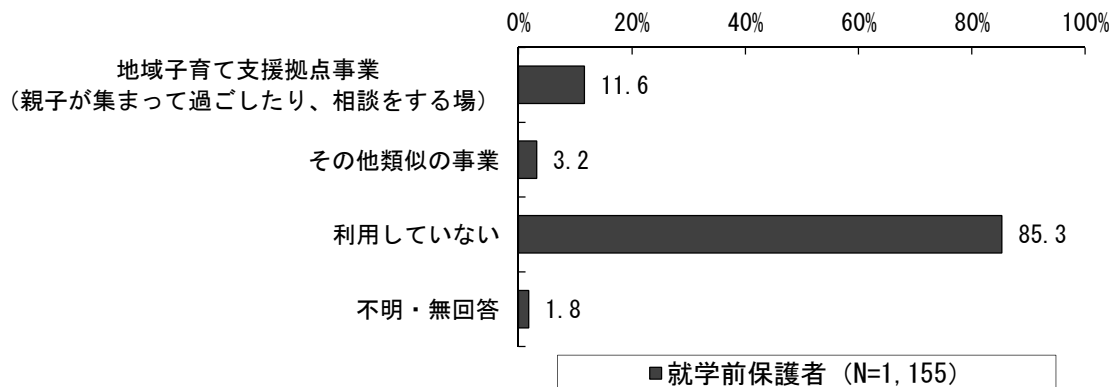


(3) 地域の子育て支援事業の利用状況について

① 現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前保護者のみ）〈複数回答〉

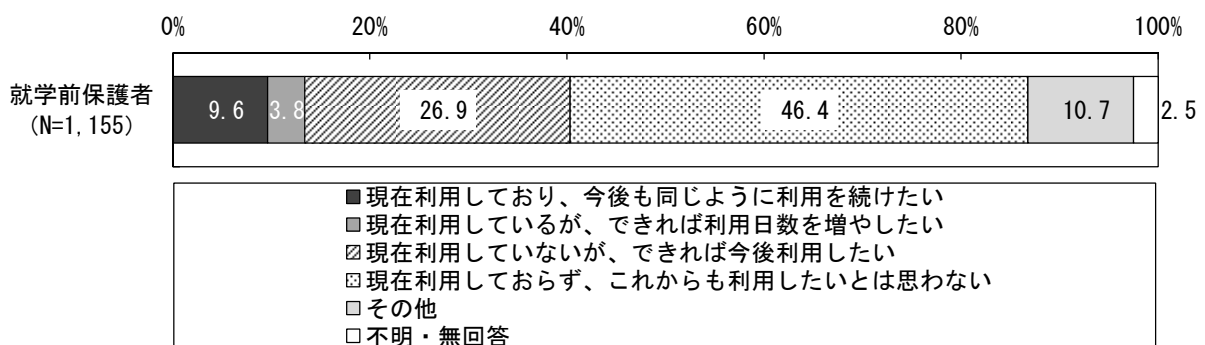
現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が11.6%、「その他類似の事業」が3.2%となっています。一方、「利用していない」は85.3%となっています。

前回調査と比較すると、「地域子育て支援拠点事業」が減少し、「利用していない」が増加しています。



② 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向（就学前保護者のみ）

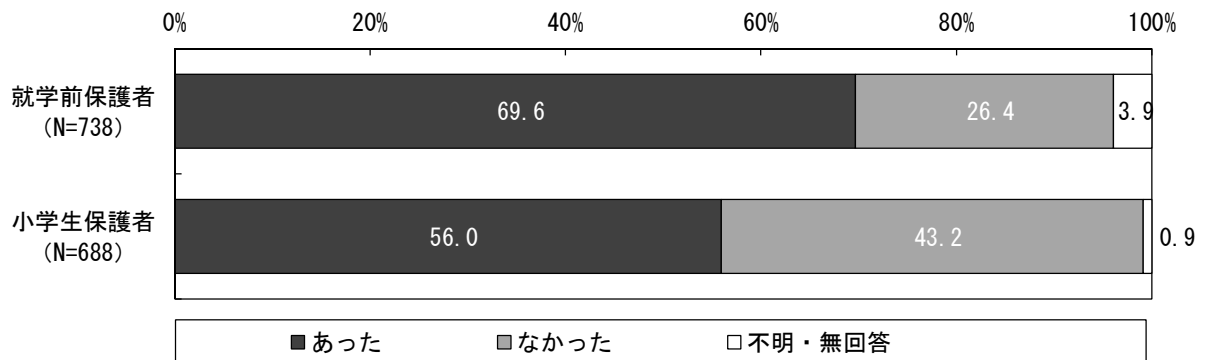
地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、「現在利用していないが、できれば今後利用したい」が26.9%と、現在利用しているという回答の約2倍となっており、潜在的な利用ニーズが少なくないことがうかがえます。



(4) 病気の際の対応について

① この1年間に、子供が病気やケガで通常の事業が利用できなかつたり、小学校を休まなければならなかつたことの有無

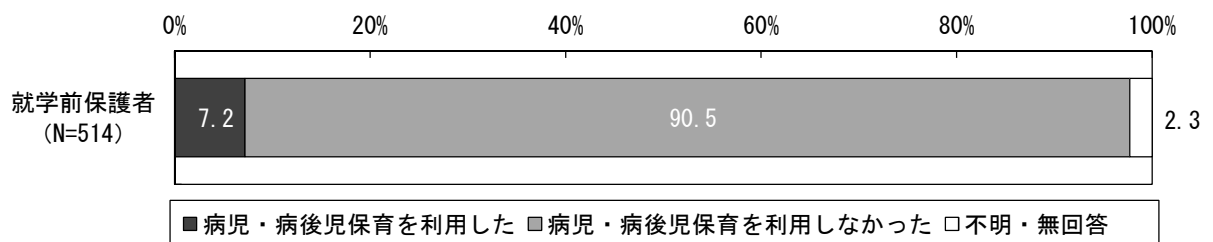
この1年間に、就学前保護者では子供が病気やケガで通常の事業が利用できなかつたこと、小学生保護者では学校を休まなければならなかつたことが「あつた」という回答は、就学前保護者で69.6%、小学生保護者で56.0%となっています。



② その際の病児・病後児保育の利用状況 (就学前保護者のみ)

病児・病後児保育を利用したのは全体の7.2%となっています。

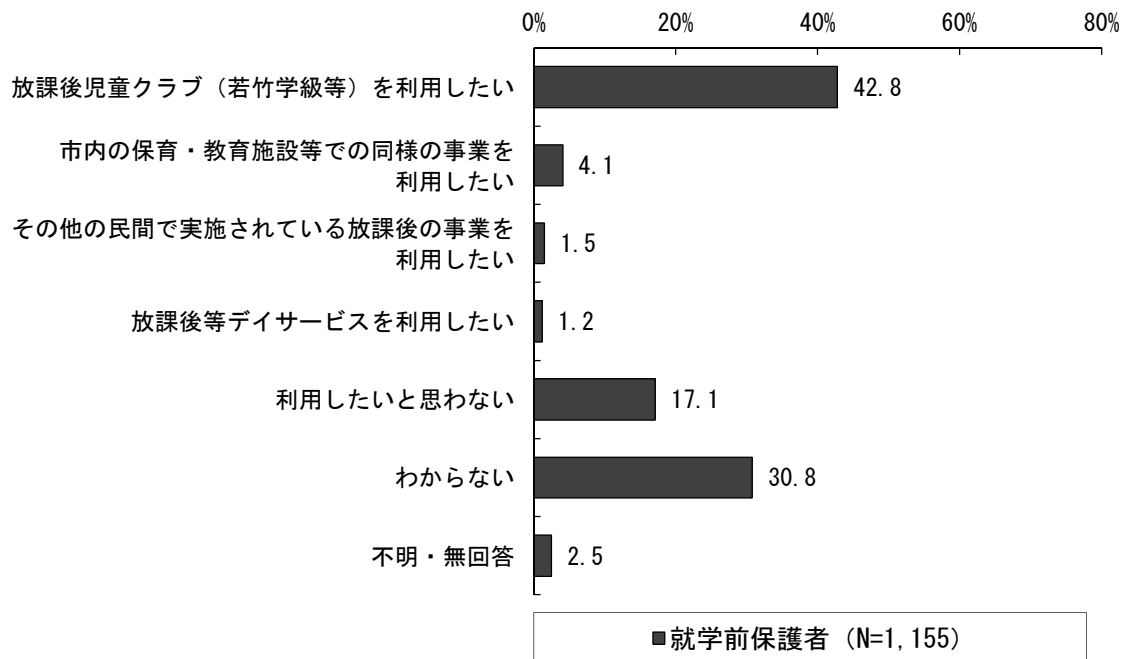
利用日数については、5日以内の回答が全体の約7割となっている一方、10日以上という回答も1割あります。



(5) 小学校の放課後の過ごし方について

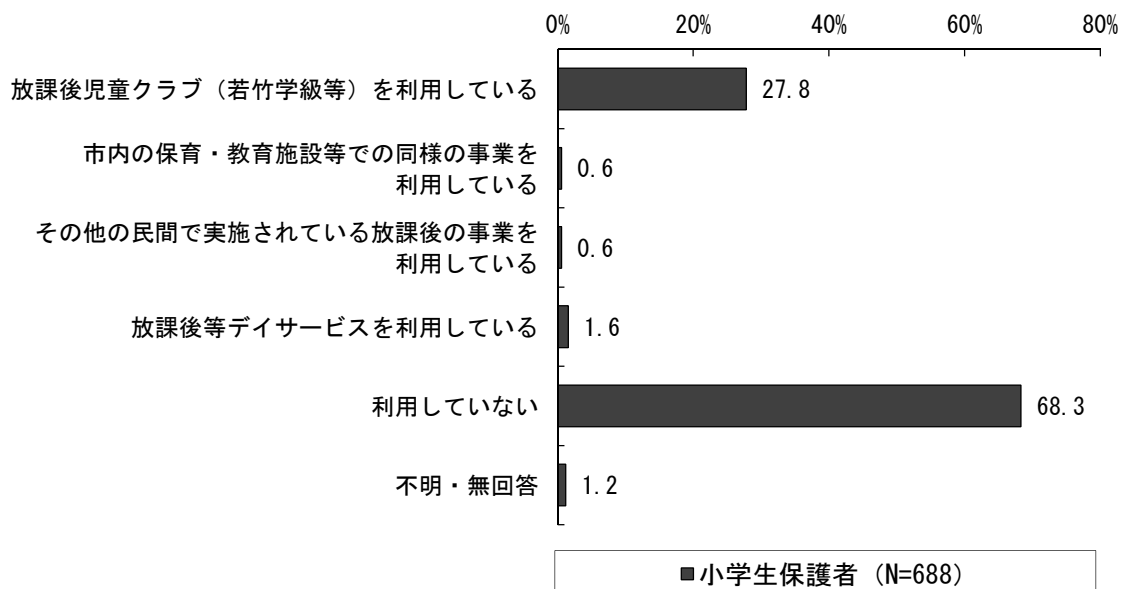
① 小学校入学後の放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業の利用希望（就学前保護者のみ）

小学校入学後の放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業の利用希望についてみると、「放課後児童クラブ（若竹学級等）を利用したい」という回答は42.8%となっています。「利用したいと思わない」は17.1%、「わからない」が30.8%あります。



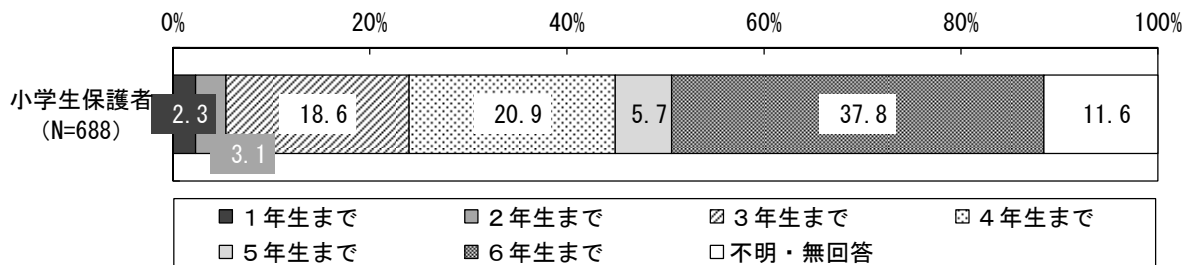
② 放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業の利用状況（小学生保護者のみ）

小学生保護者では、「放課後児童クラブ（若竹学級等）を利用している」が27.8%で、それ以外の事業を含め何らかの放課後の事業を利用しているのは、全体の30.6%となっています。



③ 放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業を利用したいと思う学年（小学生保護者のみ）

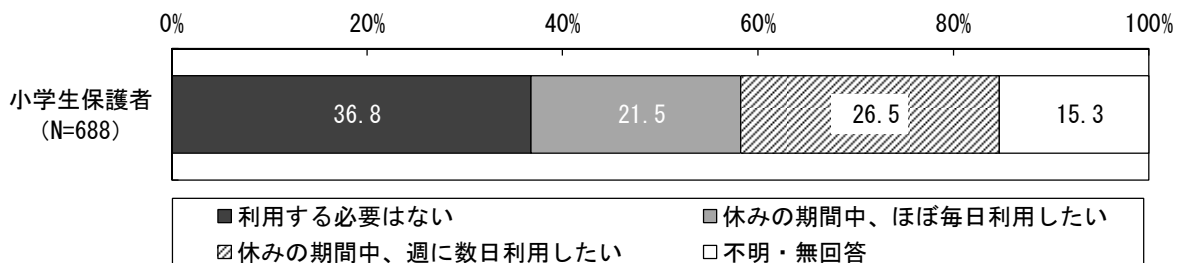
1～3年生までという回答は24.0%、「4年生まで」を含めると44.9%となり、約半数は4年生までの利用を希望しています。一方で、「5年生まで」「6年生まで」の合計は43.5%となっており、5年生以上までの利用を希望する回答も約半数を占めています。



④ 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後事業の利用希望（小学生保護者のみ）

長期の休暇期間中の放課後事業の利用希望についてみると、小学生保護者の約半数が「ほぼ毎日」または「週に数日」利用したいと回答しています。

希望する利用時間帯については、15時までが8割以上、17時までが5割以上の回答があります。17時以降についても2割以上の希望があります。

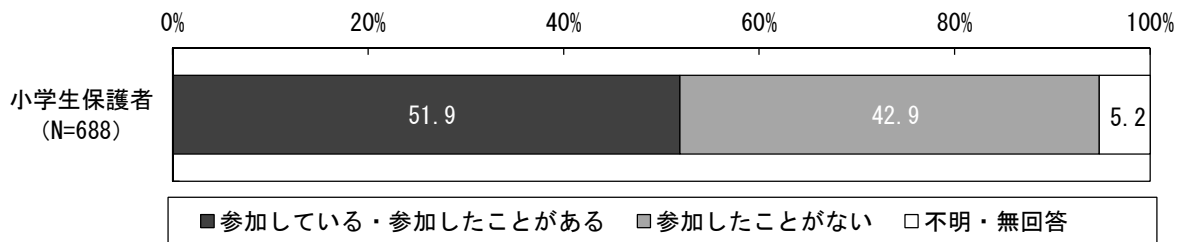


(6) 子供の健全な育成、安全について

① 子供の地域活動やグループ活動への参加の有無（小学生保護者のみ）

子供の地域活動やグループ活動への参加の有無についてみると、「参加している・参加したことがある」が51.9%、「参加したことがない」が42.9%となっています。

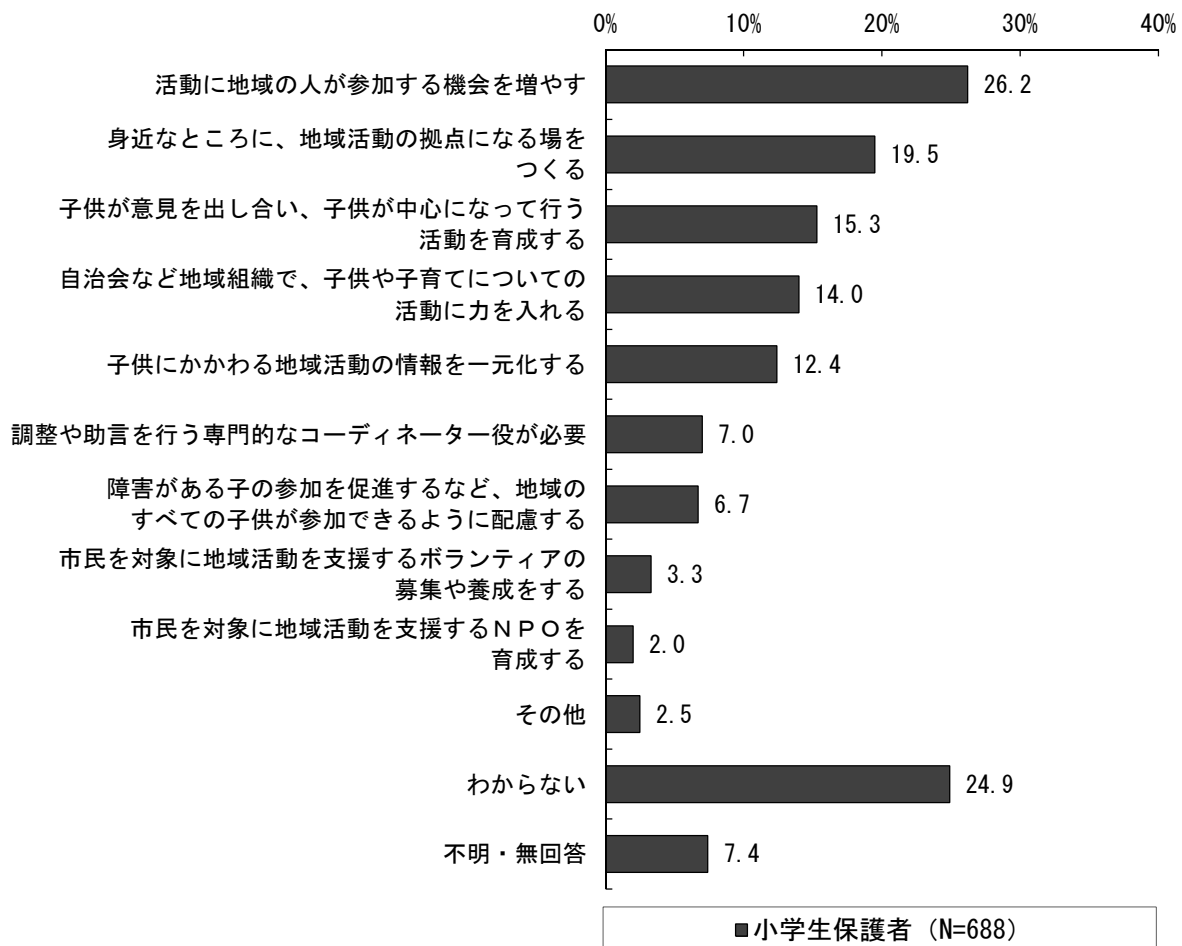
前回調査と比較すると「参加している・参加したことがある」が増加しています。



② 地域の子供たちとの交流や活動を活発にするために必要だと思うこと〈2つまで回答〉

(小学生保護者のみ)

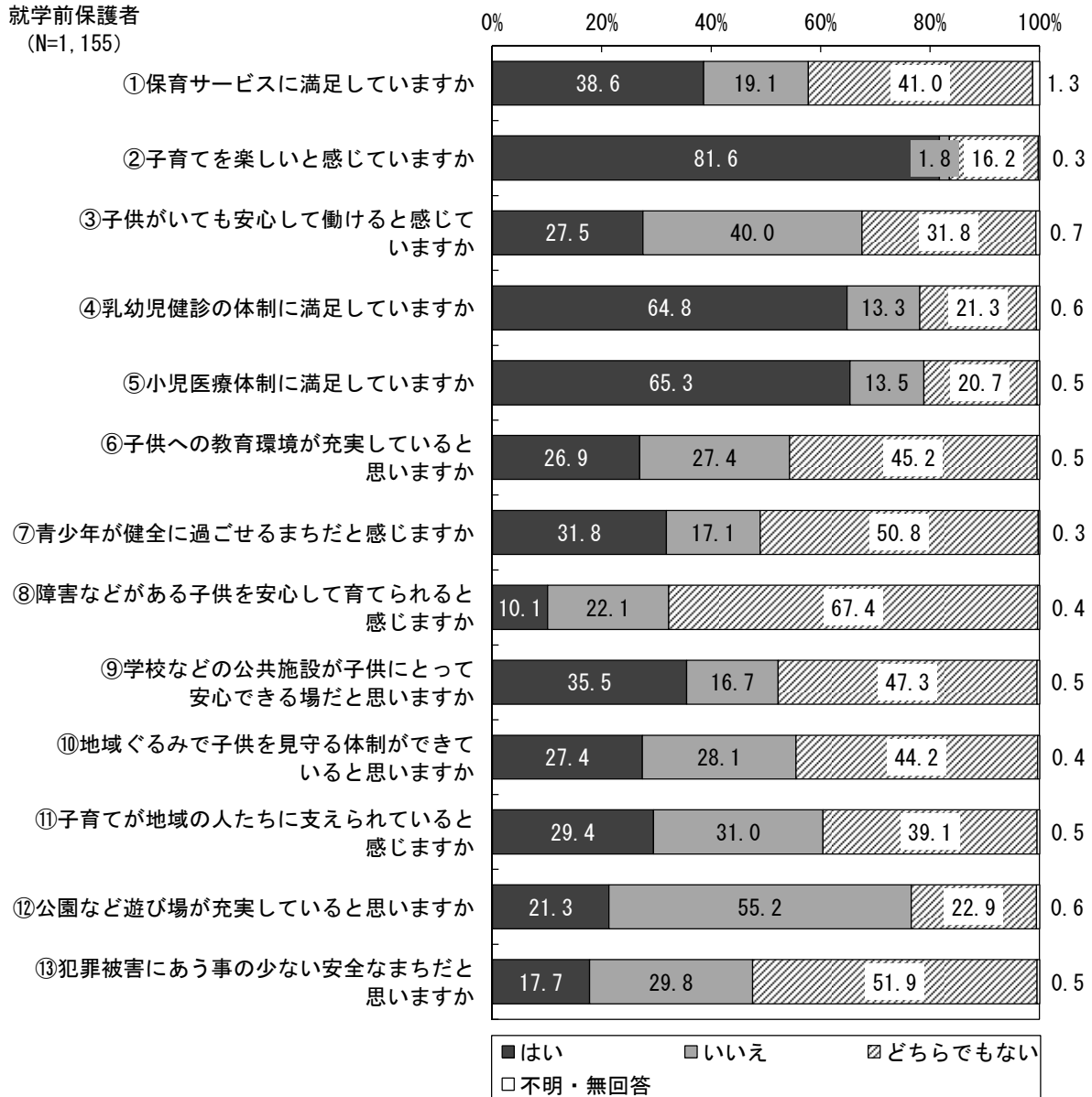
地域の子供たちとの交流や活動を活発にするために必要だと思うことについてみると、「活動に地域の人に参加する機会を増やす」が26.2%で最も多く、次いで「身近なところに、地域活動の拠点になる場をつくる」「子供が意見を出し合い、子供が中心になって行う活動を育成する」が多くなっています。



(7) 施策全般について

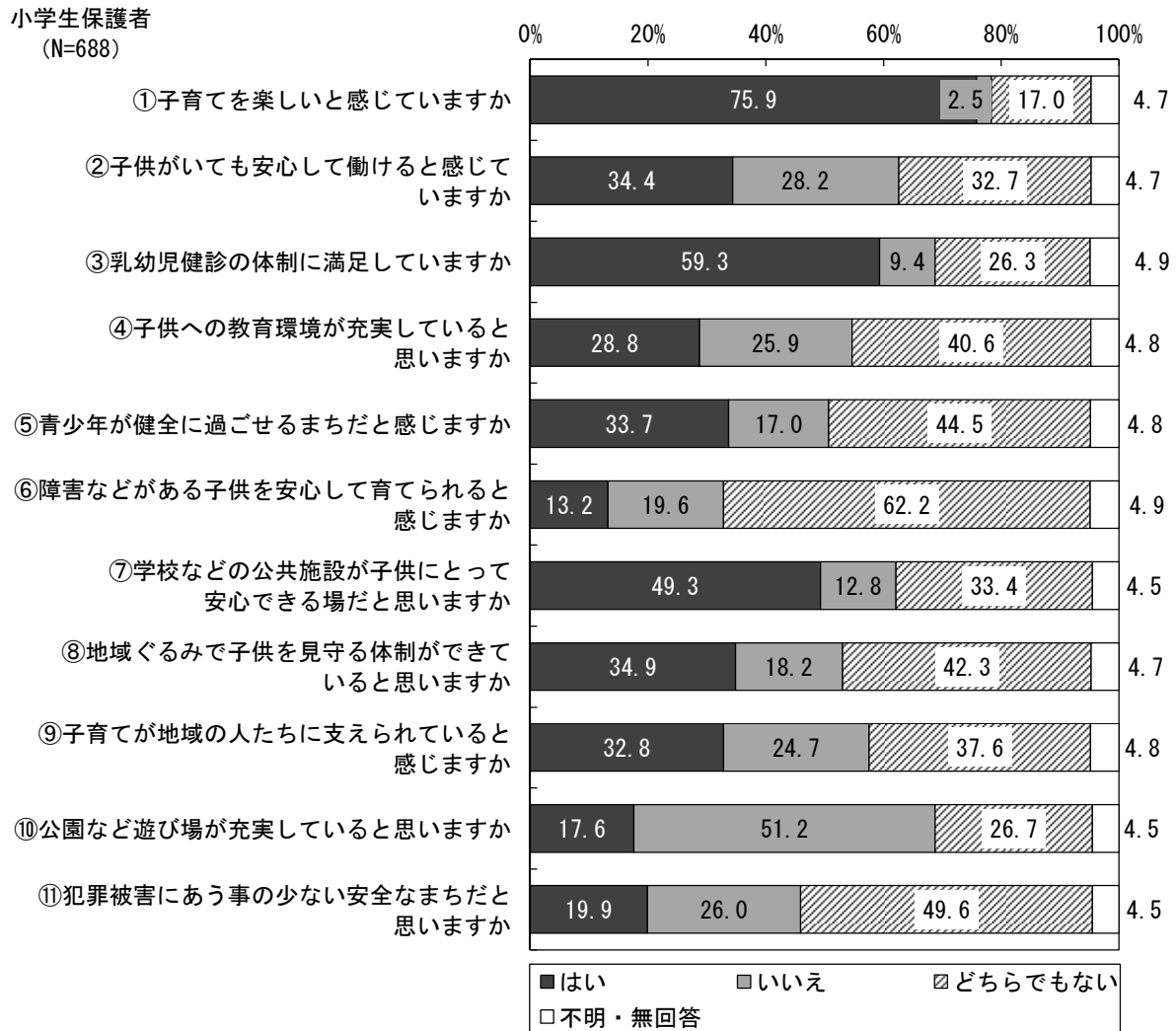
① 和歌山市の子育て施策等に関して感じる事（就学前保護者のみ）

和歌山市の子育て施策等に関して感じる事について、就学前保護者では乳幼児健診の体制や小児医療体制への満足度が高くなっています。一方で、「子供がいても安心して働けると感じていますか」「障害などがある子供を安心して育てられると感じますか」「公園など遊び場が充実していると思いますか」「犯罪被害にあう事の少ない安全なまちだと思いますか」については、「はい」より「いいえ」が多く、市民の評価が低くなっています。



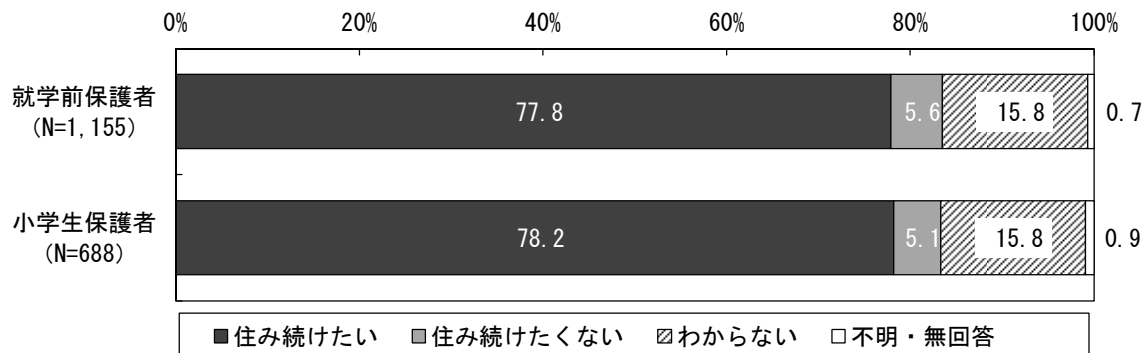
② 和歌山市の子育て施策等に関して感じる事（小学生保護者のみ）

和歌山市の子育て施策等に関して感じる事について、小学生保護者では就学前保護者とほぼ同様の結果となっています。「公園など遊び場が充実していると思いますか」については、就学前保護者と同様に「はい」を「いいえ」が大きく上回っています。



③ 居住希望

居住希望についてみると、就学前保護者、小学生保護者ともに、今後も和歌山市に「住み続けたい」が7割を超えており、「住み続けたくない」はいずれも5%台となっています。



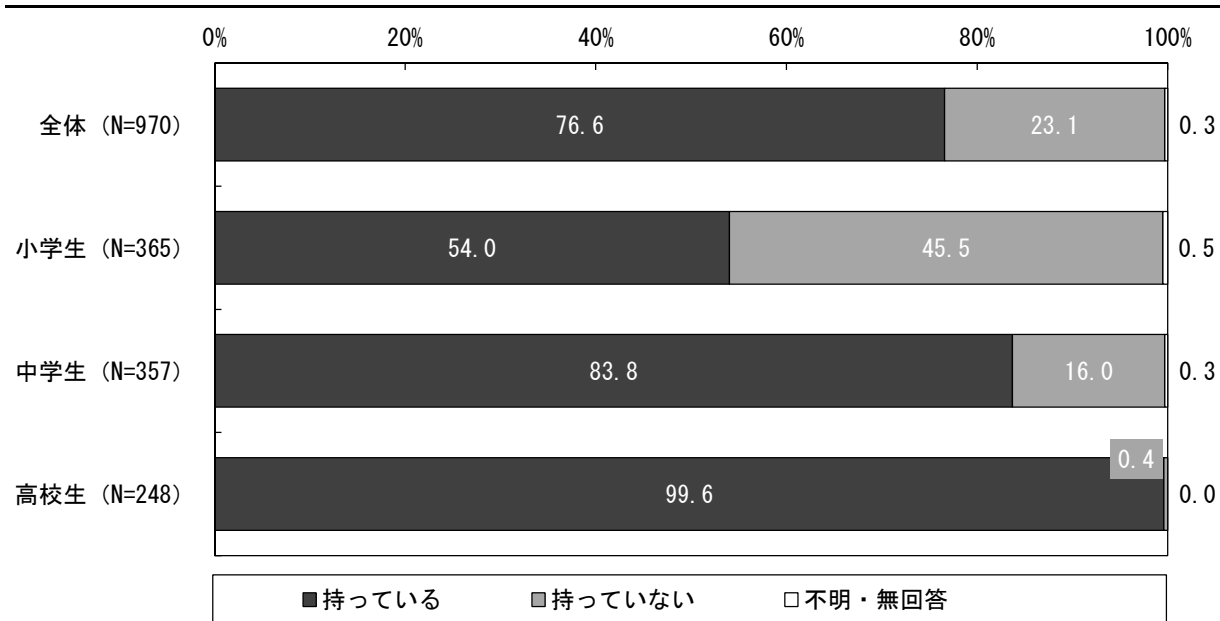
3. 小学生・中学生・高校生調査の結果

(1) 携帯電話（スマートフォン）やパソコンの利用について

① 自分の携帯電話（スマートフォン）の所持の有無

自分の携帯電話（スマートフォン）の所持の有無についてみると、小学生の54.0%、中学生の83.8%、高校生の99.6%が「持っている」と回答しています。

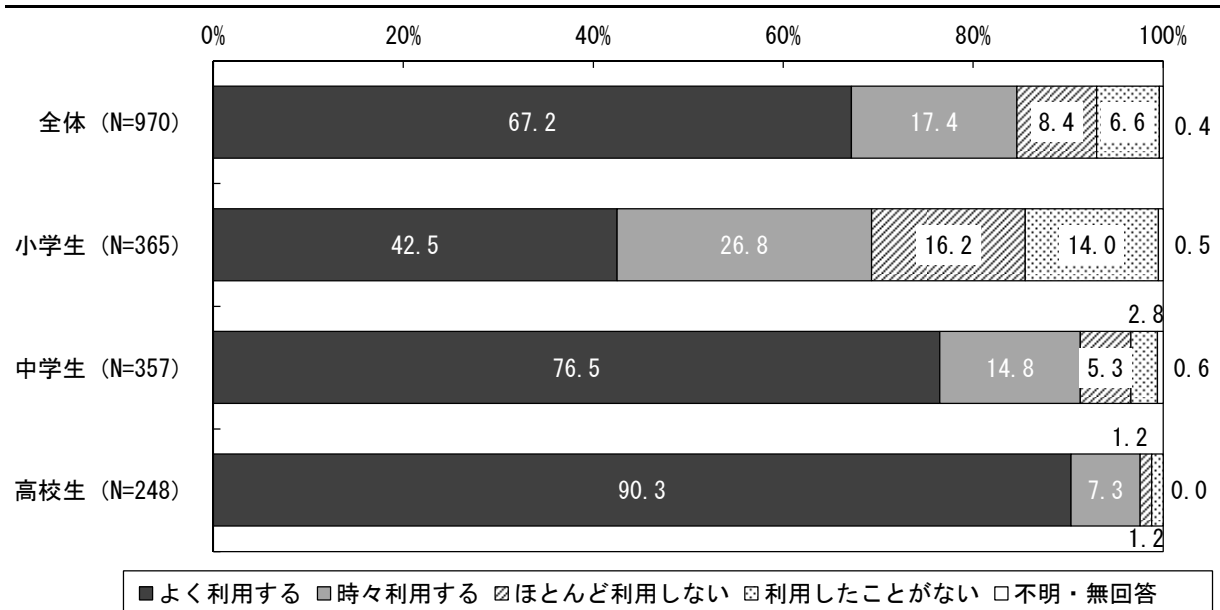
前回調査と比較すると、小学生、中学生の所持率が増加しています。



② 携帯電話（スマートフォン）やパソコンでのインターネットの利用の有無

携帯電話（スマートフォン）やパソコンでのインターネットの利用の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「よく利用する」が最も多く、高校生では9割を超えています。

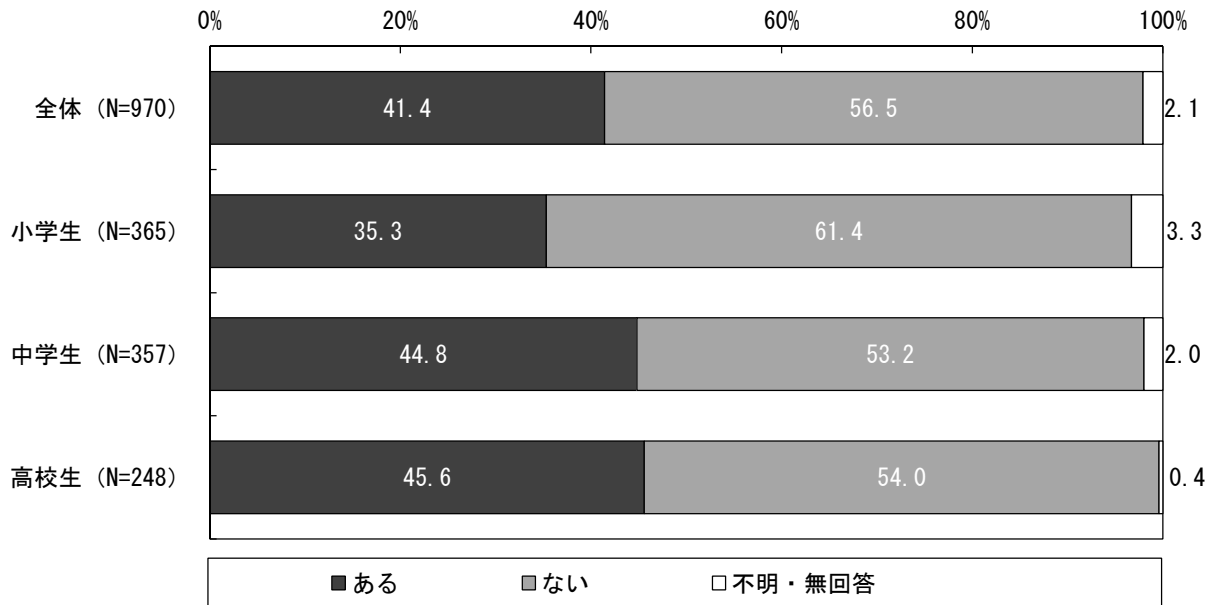
前回調査と比較すると、特に小学生、中学生で「よく利用する」が大幅に増加しています。



(2) 日常生活の様子やふだん思っていることについて

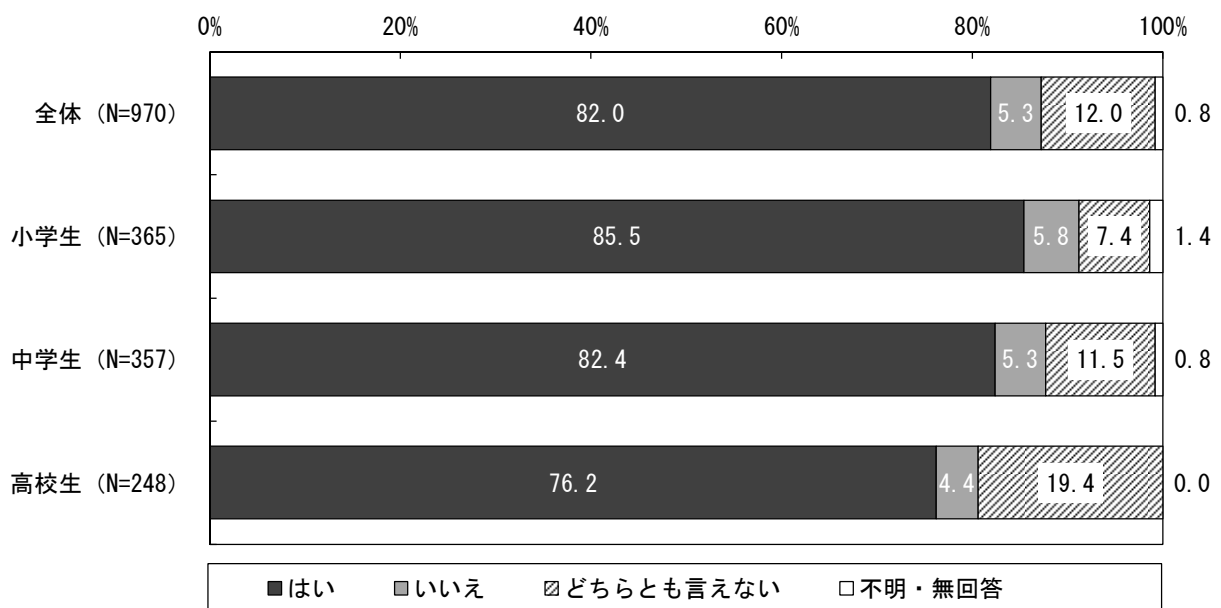
① 悩んでいることの有無

悩んでいることの有無についてみると、「ある」は小学生では35.3%ですが、中学生では44.8%、高校生では45.6%となっており、中高生の半数近くが何らかの悩み事を抱えていることがうかがえます。



② 悩みを相談できる人の有無

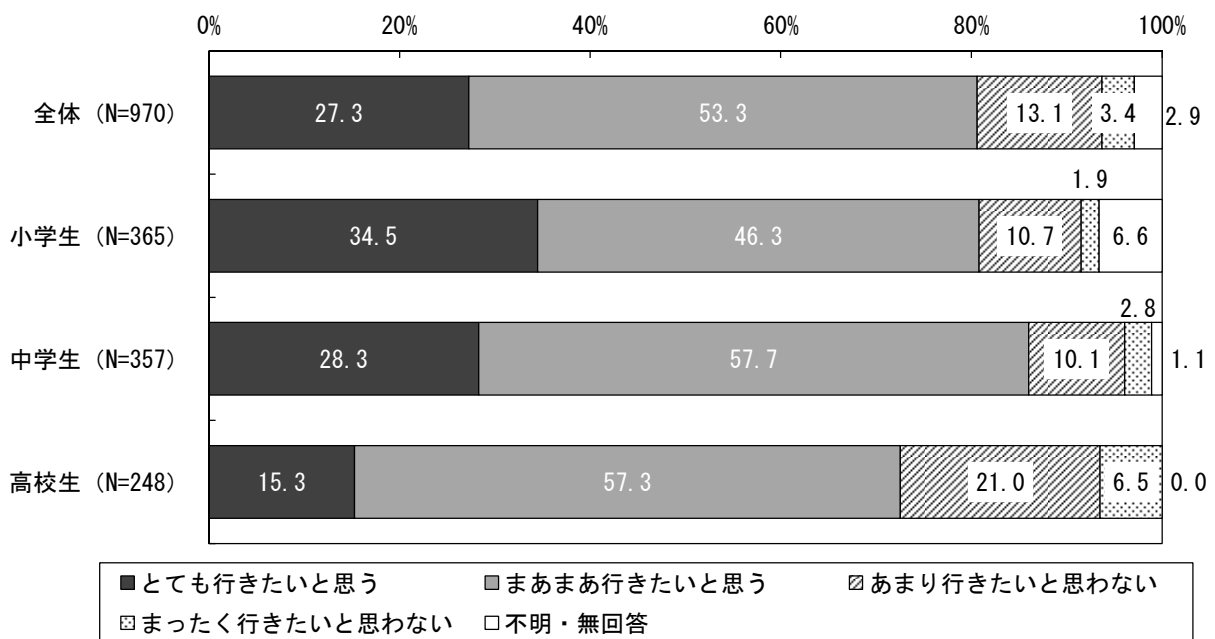
悩みを相談できる人の有無についてみると、いずれの学年も「はい」(いる)が8割前後となっています。「いいえ」はいずれの学年も5%前後です。



(3) 学校生活について

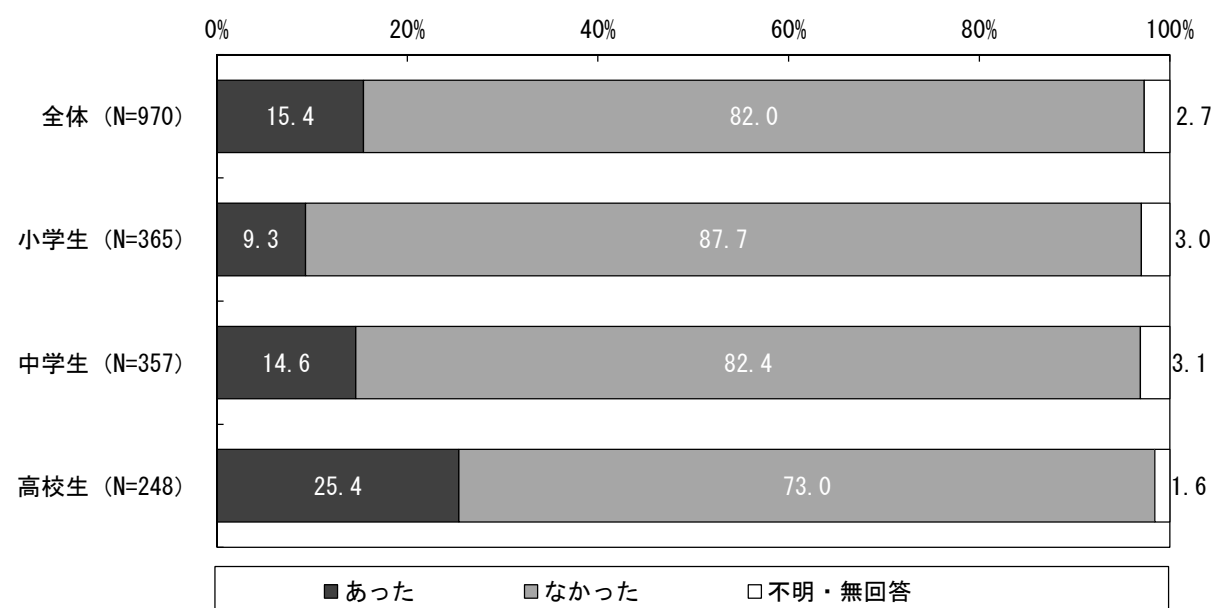
① 学校に行くことについて、感じること

学校に行くことについて、感じることは、小学生、中学生、高校生の順で「とても行きたいと思う」が少なくなっています。一方、「行きたいと思わない」（「あまり行きたいと思わない」「まったく行きたいと思わない」）については、高校生で27.5%で最も多く、中学生12.9%、小学生12.6%となっています。



② 今までに落ち込んだりなどして、学校を休んだり、閉じこもってしまったことの有無

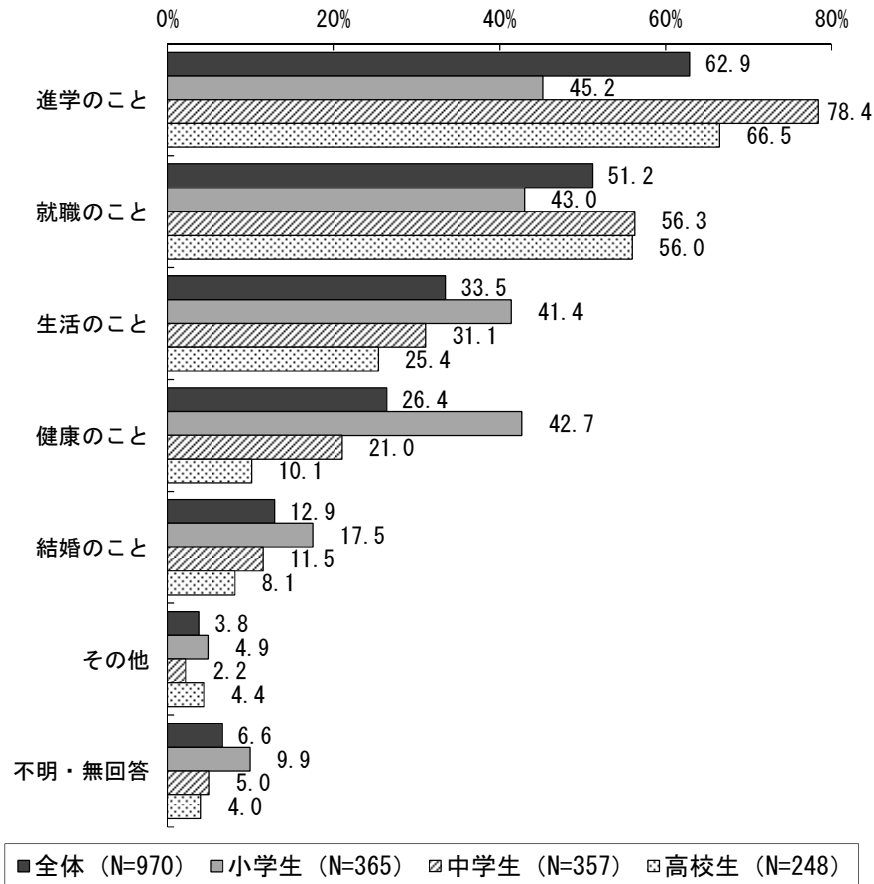
学校を休んだり、部屋に閉じこもってしまうというようなことがあったかどうかについては、学年が上がるほど「あった」が多くなっており、高校生では25.4%が「あった」と回答しています。



(4) 将来のことについて

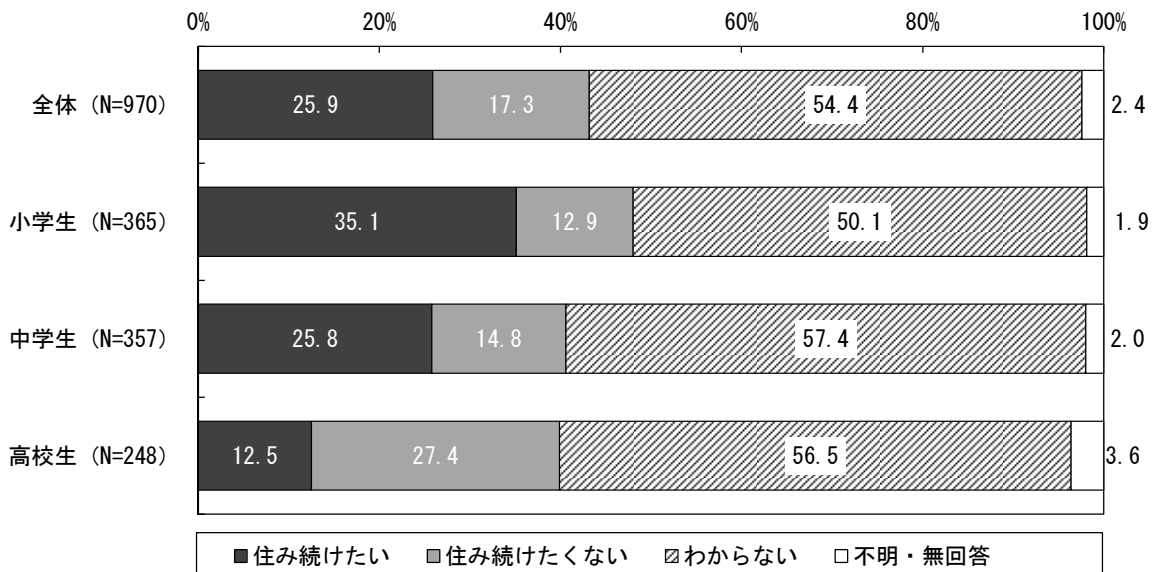
① 将来に関することで不安に思っていること〈複数回答〉

将来に関することで不安に思っていることについてみると、いずれの学年も「進学のこと」が最も多くなっています。また、中学生、高校生については「就職のこと」も5割を超えています。



② 和歌山市への定住意向

和歌山市への定住意向についてみると、いずれの学年も「わからない」が5割を超えています。学年が上がるほど、「住み続けたい」が減少し、「住み続けたくない」が増加しています。



4. 調査結果からみた本市の課題

<p>(1) 保護者の孤立の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前保護者、小学生保護者の約1割が、日常的にみてもらえる人、または緊急時にみてもらえる人の「いずれもない」と回答 ・子育てにおける保護者の孤立を防止する取り組みが必要 	<p>(2) 保育ニーズの増加への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の母親の就労率が増加 ・無償化によって追加的なニーズが喚起される可能性(特に利用率の増加余地のある3歳児以下) ・ニーズの増加に対応した受け皿の整備
<p>(3) 子育て支援事業の利用と認知について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援拠点事業の利用率が減少 ・潜在的なニーズは少なくない ・支援事業が十分に保護者に認知されていない状況が示されており、事業の周知に課題 	<p>(4) 放課後児童クラブの利用ニーズについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブについて、今後利用が増加する可能性 ・今後高学年での利用が増加することも考えられる ・入所定員や指導員の確保をはじめとした対応が必要
<p>(5) 保護者の育児不安について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になった経験や、子育てに関する不安感や負担感を感じている保護者が多い ・育児不安や保護者の悩みの解消につながる支援の検討が必要 	<p>(6) 相談窓口の利用と認知について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的な相談支援を、多くの人が利用していない、知らない状況 ・妊娠中や出産後のサポートとして、相談支援の潜在的なニーズがあることが示されている ・相談窓口の周知を進めるとともに、相談しやすい体制の整備について検討することが課題
<p>(7) 地域活動への参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の地域活動やグループ活動への参加経験の増加 ・地域における子育て支援に対して肯定的な評価 ・一方で、地域における交流に積極的ではない保護者が増加 	<p>(8) 和歌山市の子育て施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診の体制や小児医療体制への満足度が高い ・子供の保育・教育に関する項目で肯定的な評価が増加しており、この間の子ども・子育て支援事業の取組が一定の評価を得ている ・公園などの遊び場の充実について評価が低い
<p>(9) 小中高生を対象とした調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話(スマートフォン)の所持率が増加し、インターネットの利用率も小学生、中学生で大幅に増加 ・適切なインターネットの利用について、知識やルールの啓発が課題 ・中高生では、進学・就職に不安を抱えている子供が半数以上 ・和歌山市への定住意向は、小学生では高いが、高校生では低く、住み続けたい理由として市外での進学・就職を希望する意見や、市内の就労環境への不安が多数 	

和歌山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果報告書【概要版】

平成31年3月

和歌山市 福祉局 こども未来部 子育て支援課